

【研究実践校 全体授業研究会（中学年）】

参加者：就將小職員 羽合小3名 米子市11名

指導助言：愛媛大学 日野 克博 教授



○協議の柱

活動の中で、協働的な学びが達成されていたか。
運動の特質を生かした学びになっていたか。

○成果

- ・子ども達が体を寄せて話し合い、活動する姿がよかった。

（授業者）子ども達はアイデアを出すことが苦手

⇒技能のポイントを示したことで子ども達の活動が広まった。

⇒子どもの動きを取り上げたことで、いきいきとした活動（自信）につながった。

⇒仲間と学び合う楽しさを感じている子どももあった。

- ・ウォーミングアップでの指導者の子ども達への関わりが素晴らしかった。

（授業者）新聞紙や風船を巧みに扱い、場面を想起させる声かけをすることで子ども達の動きを導き出していた。

（フロア）表現が苦手な子ども達への支援と捉えた。新聞紙や風船の模倣で表現の世界に没入できるようにと考えた。ゴールイメージを単元の始めに示すことも行った。

（フロア）表現の苦手な子ども達には、「どんなものか知ってる？」などイメージを確認すると動きに繋がる。また、一緒に活動しながら、時には手をとって子どもの腕を伸ばすなど動きをつくっていくと効果的だった。

（指導助言）新聞紙や風船から質感や形状の変化を捉えさせるねらいがある。その際、擬音がイメージを膨らませる一助となる。本時は、心と体、頭のウォーミングアップになっていた。

- ・T2, T3の役割がよかった。

（授業者）難聴児が在籍しているため、T1の発言を視覚化することに心がけた。結果、それが多くの子どもの支援になった。【ユニバーサルデザインの授業】

（指導者）前時のふり返しボードをもとに、評価が低いグループを優先して支援に入った。

（指導助言）TTには、エリアを分けた指導、役割をもった指導、個別対応での指導がある。今回ふり返しボードをもとに支援の重点を決めるやり方は、まさに指導と評価の一体化の具現化である。

○課題

- ・題材の設定について、子ども達はポップコーンやハンバーグが作られる過程を知っていたのか。

（フロア）動画でポップコーンやハンバーグが作られる過程を事前に見せておくことで、動きの質が多様化したのではないか。

- ・「ひと流れの動き」をどう捉えさせていたか？

（フロア）子ども達が何を表現したかったのかが不明瞭であった。ポップコーンがはじける瞬間を、ハンバーグが焼ける瞬間を大げさにして表すことが「ひと流れ」ではないか。それを言語活動によって意図を明確にすることも有効ではないか。